

覚せい剤乱用者総数把握のための調査研究(5)

(財) 社会安全研究財団委託調査研究報告書

平成 15 年 3 月
統計数理研究所
田村義保

はじめに

覚せい剤使用に関する調査を平成10年度から継続して行っている。薬物の不法使用(乱用)は個人の健康に悪影響を与えるのみならず、社会的な病巣をも作り出していく。乱用されている薬物は覚せい剤だけではなく、大麻やシンナー等もあるため、総合的な薬物対策の推進が必要である。本年度は、平成14年度と同様に郵送による調査も行った。薬物経験者を知っているかの問いだけでなく、本人の薬物経験を直接問う質問も行っている。この研究は、薬物使用の状況を広く一般に訴え、薬物問題に対する認識を深めるための情報を集めることを目的としている。調査結果が今後の薬物対策の有効な資料となれば幸いである。

平成15年3月
統計数理研究所

田村義保

目次

第1章 調査の概要	3
第2章 郵送調査	4
第3章 オムニバス調査	60
第4章 まとめ	68

第1章 調査の概要

第1節 調査の目的

薬物の不法使用（乱用）、特に、覚せい剤乱用者数を推定することが調査の目的である。

第2節 郵送調査の方法

社団法人中央調査社に依頼して郵送による調査を行った。調査設計は次のようになっている。調査票及びその結果は第2章に示している。回答者数は1,058人で、回答率は52.90%である。昨今の調査環境の悪さを考慮すると、十分満足できる回答率である。第2章の表4の回答率とは、日本の人口構成比と回答者の構成比とを比較した値である。回答率が1の場合は、日本の人口構成比通りの割合で回答者がいるということである。1を超えている場合は、その年齢の方あるいはその地域の方が人口構成比と比べて余分に答えているということを意味する。1より小さい場合は、回答者が少な目であることを意味している。20代については、昨年は0.75であったが、今年は1.14と大きくなっている。また、40代女性が昨年は1.32であったが、今年は、0.96である。標本数が少ないために、この程度のゆらぎは避けられない。日本全体の比率を推定する場合は、回答率の違いによる補正が必要であるが、本報告では行っていない。

- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査対象 20歳以上の男女
- ・ 標本数 2,000（1,000サンプル程度回収見込み）
- ・ 抽出方法 個人マスターサンプルより地域・性・年代別割当
- ・ 調査方法 郵送法（督促葉書1回）
- ・ 調査時期 2002年11月19日～12月6日

第3節 オムニバスの方法

- ・ 調査対象 全国の20歳以上の男女2,000名
- ・ 調査地点 全国157地点
- ・ 抽出方法 層化2段無作為抽出法
- ・ 調査方法 調査員による個別面接調査
- ・ 調査時期 2001年12月6日～12月9日

性・年齢別の回答数は次の通りである。

表 性・年齢別回答者数

	総数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
男	614	76	117	78	119	224
女	805	112	136	128	192	237
男女	1419	188	253	206	311	461

回答率は70.95%で、これまでの調査と大差はない。調査票及び結果は第3章に示す。